

## 第1回「関西観光・文化振興計画」検討委員会議事要旨

1 日 時 令和6年7月12日（金）14時00分から15時30分

2 会 場 関西広域連合本部大会議室

3 出席者 藤野委員（座長）、橋爪委員（副座長）、岡部委員、川森委員（web参加）、北村委員、木ノ下委員、坂上委員、東井委員（web参加）、横井委員（web参加）

### 4 各委員の主な発言

#### （委員1）

・首都圏は東京を中心に同心円状に広がっているが、関西は必ずしも大阪に中心があるわけではなく、そういう面で連合が難しいと思うところもある。そのあたりをどう繋いでいくか今度の大阪・関西万博は非常にいい機会。

#### （委員2）

・歴史という、東京には得がたいポテンシャルが関西にはある。それを強く新しい文化とともに結合させながら、この関西で芽吹いてる事業をどうキャッチアップして、大きいものにちゃんと発信していけるのか、特に大阪・関西万博を契機にそれを継続的に、或いは支援していけるのかということはこの計画の中に盛り込めたらと思う。

#### （委員3）

・特に見直しの視点で重要視しているのは、経済と文化で好循環。文化から経済的な価値を見出し、うまい形で好循環を起こしていくことに力を入れたい。  
・文化財の「利活用」という視点も重要。利活用を進め、さまざまな形で文化財を保護できるように収入を得ていただくことが重要  
・関西万博も文化情報発信の良い機会とし、日本博2.0をご活用いただきたい。

#### （委員4）

・インバウンドによる文化消費、或いは観光文化消費の促進策をぜひ取り組むべき。つまり、外国人旅行者と日本人旅行者の二重価格、価値に見合った価格の設定の検討。文化を守っていくためには、インバウンドの人たちにも負担をしてもらう必要がある。  
・一部地域に集中するインバウンドを地方に分散することが重要。  
・地方分散の需要はあるが、具体化が進んでいない。受入のメリット、方法、人材の確保等の情報発信を広域連合が率先して取り組んでいただきたい。  
・総花的な計画から、絞り込んだアクションプランとなるよう記載を改めていただきたい。  
・広域連携DMOである関西観光本部の財源についても計画の中で検討すべき。  
・KPI的指標に文化指標はないので、何か文化に関わる指標をぜひ取り込んでいただきたい。

#### （委員5）

・文化と経済の好循環という話については持続可能である必要がある。畑がすぐ荒れてしまっただけでは、元も子もなく肥料を入れてきっちり耕していく、その上での文化観光だと考えている。

- ・文化観光の中に、芸術文化観光という1つの分野を確立して、そこを発展させていきたい。
- ・演劇やダンス、音楽といったパフォーマンスアーツを主とした舞台芸術を観光の観点から考察する研究は少ないし、そのための仕掛けもまだまだ不足。
- ・関西や日本という規模だけではなく、国際比較の観点から芸術文化と観光を、つなげていくような総合政策としてその芸術文化観光ということを考える必要。
- ・文化観光という概念をきっちり確定する必要がある。

#### (委員6)

- ・円安やビザの緩和、他の国の所得増によってインバウンドが増加したが、関西はじめ日本の競争力をどんどん上げていかないといけない。
- ・電通が発表したジャパンプランド調査によると、外国人が地方に行かない理由として、コミュニケーションができない点、東京大阪京都以外のところの情報わからない点、その地域のアクティビティをほぼ知らないという点、この3つがトップに入っており、こういった点について対応できていない。
- ・コロナ以降、体験・コト消費、体験型を求める傾向が高まった。
- ・自分たちにパーソナライズされた体験や食事の提供、農家での宿泊など、いろんな体験を求めるようになってきている。特に中国人観光客中心に変化が見られる。
- ・今後、パーソナライズされたコンテンツを地方でどうやって実現するかが重要。
- ・日本は特に夜間の移動が不便で、ライドシェアの普及も遅れている。世界的に有名なライドシェアのサービスや、全国一律のライドシェアでやる必要がある。
- ・日本への観光客が増えている大きな理由のひとつが、外国人がSNSでいろんな情報を拡散している点。反面、ネガティブなことがSNSで発信されると、「行きたくなくなった」といった反応も起こる。
- ・観光客のマナー違反について、「違反はやめてください」ではなくて、「日本の文化・習慣はこうです」というポジティブに伝える必要がある。
- ・観光客側のニーズを、セグメントごと、国ごとに分析して考える必要がある。
- ・世界経済フォーラムで旅行指数が発表されたが、日本のホテル・レストランの生産性が低い。人を増やしても解決できないので、今働いている人の生産性を上げる必要がある。
- ・旅行・観光・文化施設への投資金額も下位。文化施設等をどうやって守り、良くしていくのかも課題の1つ。

#### (委員7)

- ・キーワードは文化だと思うが、計画の中でどのあたりまで文化とするか共通認識として整理が必要。文化とだけ言えば、生活文化もある。歴史・芸術文化を念頭にしておられるなら、それに絞ったものにするのも考え方としてあるのではないか。
- ・現行計画のサブタイトルが「文化観光首都関西」とあり、何となくの雰囲気は伝わるが、「文化と観光」なのか、「文化観光」なのかははっきりしない。首都という用語は、東京都がそうであるようにエリアとして限定的。広域関西を指すのであれば、首都という言葉でよいのか。
- ・広域連合がリーダーシップをもってやる部分、その他誰が主体でやるのかということを確認して計画に書き込む必要がある。
- ・EXPO2025 関西観光推進協議会では、2府8県4政令市の協力により、数多くの旅行商品の造成が実現した。万博の機会を使って、こうした情報をしっかり発信し、地域への観光にどこまで貢献できるかを実証していく。そうした取り組みについても計画に入れていただきたい。

・御食国などの成功事例もあり、協議会という形での連携が、1つの例になろうかと思う。

#### (委員 8)

・どのような状態の2030年を目指すのかということ想定し、「これが重要なプロジェクトである」ということを掲げることが重要。

・関西広域連合の事業は、構成してる府県政令市横連携を進めていくことが中心になるので、各府県政令市のベストプラクティス・良い事例を横展開できるということを中心に据えていくべき。

・より広い意味での観光とは、人の移動・流動性を高めること。観光客だけではなく、留学生や、二地域居住する人など多くの方に地域に関わってもらうことで、人口の流動性・移動の流動性を高める。流動性を高めるという意味においては、2次交通の課題解決は重要。

・デジタル化等も含めて、誰もがスムーズに移動できる社会の実現が必要。世界に比べると明らかに日本はシームレスな移動ができない。

・2030年までを考えると、京奈和道の完成や、神戸空港もその前後に国際化し、空港の連携も進む。3空港に加えて、鳥取や白浜や但馬空港等の利活用等で新しい観光ルートができることもシームレス移動の1つの事例。

・日本の全体の中で、関西の文化観光はどうか、もう一度再定義すべき。「首都」という言葉ではなく、違う位置付けを考えなければいけない。

・持続可能な観光の視点は重要。国連等で今議論されてる中で有力なキーワードは「wellbeing」。観光客だけではなく、市民も共によく生きることができると目指すことが注目されており、ヘルスツーリズム、ウェルネスツーリズムは重要になってくる。

・バスの運転手に限らず、ホテル・飲食業・建設業などすべて人手不足。外国人の方の労働者の受入れを考えていく必要がある。京都市では、料理人として和食を学ぶ外国人に労働ビザを発給する制度があるが、そうした制度を様々な分野において導入できるよう、規制緩和を求めていく必要がある。

・文化施設の建て替えについて、スポーツとライブ等の文化イベント両方を開催できるアリーナ施設を、文化振興の中心として都心に建設するのが現在の主流。官民連携で、コンセッション方式、PFIやPPPを活用し、魅力ある施設を作ることが重要。

・重要文化財等の入館料だけではなく、お寺での寺泊や城での城泊など、新しい宿泊などを関西で推進できればよい。

#### (委員 9)

・これからの観光では、文化観光とサステナブルというのがキーコンセプト。

・関西広域連合の各地域が、自分たちの強みを語れるように、ストーリー化・シナリオ化していくことが重要。その土地の文化、日本の心を感じられるような唯一無二のコンテンツがたくさんできてくれば関西の魅力が増える。

・世界中が関西に目を向けるこの絶好の機会に、万博公式サイト観光ポータルサイトを大々的に使っていくことが重要。

・万博をきっかけに、国際会議の誘致もできるし、その先にはIRの予定もある。世界の有名企業のMICEもあるだろうし、BtoBの観点も必要。BtoCとBtoBの両軸で訪日インバウンドも考えることも必要。

・昨今災害が多発する中で、交通機関での外国人向けの案内等、観光危機管理の観

点を、広域連合で進めていくというのは、非常に大事。

・京都一極集中、大阪一極集中を地域に広げていくために、ヨーロッパのような各地を巡る周遊バスの運行など、2次交通の対策で画期的なことができればよい。